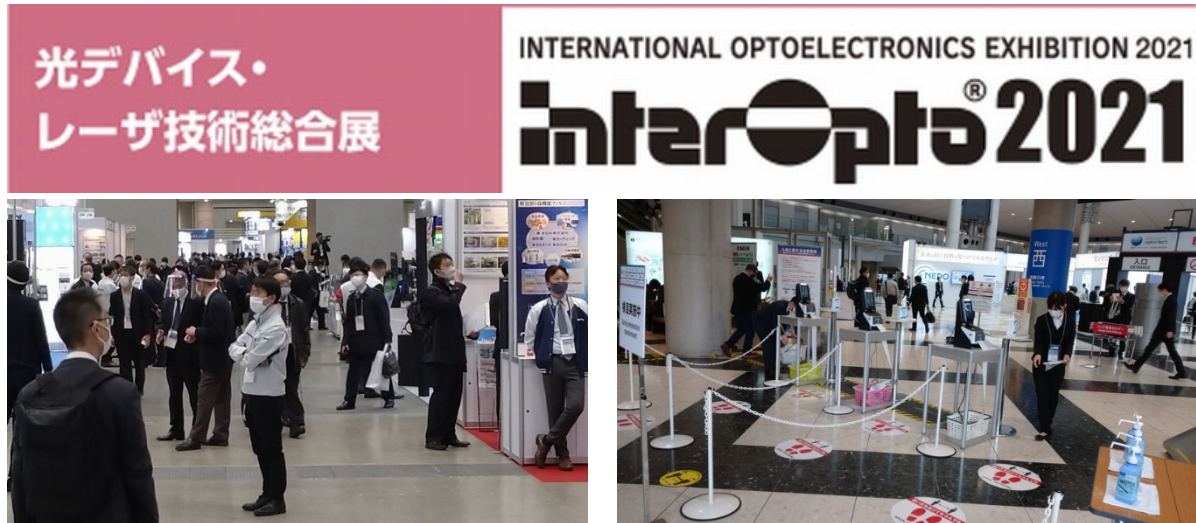


インターオプト 2021 報告



最先端光技術の国際展示会である、インターオプト 2021 を 12 月 9 日（水）～11 日（金）の 3 日間、東京ビッグサイトにて開催した。

当初は前回に続き、東京ビッグサイトで 1 月下旬に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大およびそれに伴う東京オリンピック・パラリンピックの 1 年延期という事態を受け、開催規模を大幅に縮小するとともに、会期を 12 月に変更、開催方法についてもリアル展示会とオンライン展示会のハイブリッド形式に変更して開催することとなった。展示会場においては、完全事前登録制による入場者数の制限、会場入口での検温・消毒の徹底、マスク着用の義務化など、コロナ感染症対策に万全を期す中での開催となった。

同時開催展示会は、従来からの「LED JAPAN」「Imaging Japan」「MEMS センシング&ネットワークシステム展」に加えて、ナノテクノロジーの国際展示会である「nano tech」等の 11 展示会を加えた全 15 展示会で実施した。

インターオプトは弊協会が主催し、株式会社 JTB コミュニケーションデザインが企画・推進、経済産業省ほか多数の団体の後援・協賛を得て開催している。（今回、後援・協賛をいただいた団体を文末に掲載）

出展分野は、レーザ／光源、光素子／部品、材料、光機器／装置から光産業関連のサービス／ソフトウェアまで広範囲にわたり、出展品目を通して光関連材料から光応用システムまでの幅広い技術を展示対象としている。

当初は東京ビッグサイトの東ホール全体を使用して開催する予定であったところを、全 15 展示会を西 1 ホールと 2 ホールに集約して実施した。今回はインターオプト単独では、国内外の光関連メーカー、商社など 41 社、45 小間の出展があった。また光関連 3 展示会とマイクロマシン展の 4 展示会合計では 73 社、86 小間であった。開催期間 3 日間の登録来場者数は、相互入場を可能とした nano tech 他全 15 展示会合計で 10,615 名、オンライン参加を含めると 22,704 名となった。

展示ホールでは、恒例の「注目される光技術・特別展示ゾーン」を設置し、光技術動向調査委員会の各分

科会から推薦を受けた企業6社が弊協会からの出展支援を受けて技術・商品展览展示するとともに、「注目される光技術セミナー」での講演を実施した。一方、弊協会ブースでは、光産業・技術の概要を写真・パネルにて展示した。特に光産業・技術に関する調査研究に関しては、各種調査報告書の展示、技術情報レポート等の無料配布など、弊協会の活動の紹介、光産業および光技術の最新情報の提供など広報活動を行った。

会議棟6階605・606会議室では、初日の12月9日に光産業技術シンポジウムを開催した。

なお、今回のインターオプトは開催内容・開催時期を大幅リニューアルし、2021年5月26日(水)～28日(金)の3日間、東京ビッグサイト 青海展示場にて、JPCA show (電子機器トータルソリューション展)との共催で開催する。先端光技術の最新動向とより幅広い技術との融合による応用可能性を訴求できる場となるよう、開催準備を進めていくことにしている。

今回のインターオプトに後援・協賛をいただいた団体は次の通り。

後援 (4団体)： 経済産業省、独立行政法人日本貿易振興機構、公益財団法人日本科学技術振興財団
一般財団法人対日貿易投資交流促進協会 (順不同)

協賛 (16団体)： 公益社団法人応用物理学会、一般社団法人電子情報技術産業協会、一般社団法人電気学会
一般社団法人電子情報通信学会、公益社団法人精密工学会、一般社団法人日本電機工業会
公益社団法人計測自動制御学会、一般社団法人日本電線工業会、一般社団法人日本光学会
一般社団法人情報通信ネットワーク産業協会、一般財団法人マイクロマシンセンター
特定非営利活動法人日本フォトンクス協議会、一般社団法人レーザー学会、レーザ協会
一般社団法人レーザ加工学会、レーザ輸入振興協会 (順不同)